

## 令和5年度熊野古道協働会議・第3回分科会 発言要旨

日時：令和6年3月27日（水）10時30分～12時

場所：三重県立熊野古道センター 小ホール

\* 事務局において、意見交換での発言要旨を内容ごとにまとめました。

「○印」は参加者からの意見、「●印」はその意見をふまえた意見交換・質疑応答のまとめです。

### 【各市町の状況】

- 熊野市の保全団体4団体のうち3団体とは話できているが、行政との話はまだできていないので、これから行政とも話す場を持ちたい。
- 保全団体との連携は必要不可欠と思っているが、何をどうやって連携していくのか、具体的に丁寧に考えていかなければいけない。お互い無理なく法令の範囲で連携できるように、話し合いを持てればと考えている。
  
- 伊勢エリアの意見交換会では、これからの伊勢路の取組について、行政がどんな感覚を持っているのか聞きたかったが、結果として発言がなかった。
- これまでの分科会のご意見をふまえ、課内で検討しているところ。意見交換会をきっかけに、今後、話す機会を設けたい。
  
- 着実に、慎重にやっていかないといけない。峠の団体から、市町でまとまって、エリアで進めていくべきと認識している。最終的には、全体を統括する組織をどうしていくのか。
- 保全団体同士でお互いに活動を知ってもらうことは意義があると思うので、市町を越えた連携ありきではなく、お互いを知ることから始めていければいいと思う。
- 地域全体で支えていくために、行政も何らかの形で協力してもらいたい。意見交換の場を設定していただき、その際に保全団体だけでなく、古道に関わりのある地域の経済・観光団体等にも入ってもらいたい。

### 【保全団体の高齢化】

- 保全団体の会員は後期高齢者に近い方が多い。計画では5年だが、前倒しでお願いしたい。
- 計画では次の5年を目指して、しっかりした体制を作っていくということで、毎年少しずつ前に進めていく。

- 若い人にとっては、自分がいつまでやっていくのか、負担感があり難しいと思う。役員を数年で回すとか、漠然とした不安をなくしていけないかと思っているので、実態を教えていただけると助かる。
- 若い人は仕事があるので、平日にボランティアで保全活動はできない。熊野古道があるから経済が回るというようになれば、地域に仕事が生まれ、若者も地域に留まるようになり、保全活動にも関わってもらえるのではないか。

### 【語り部との連携】

- 語り部の活動を通じて、熊野古道を未来へ伝えていかなければいけないという教育をしているところもあると思う。語り部の知識を得た方が、保全の必要性を感じるような方向性になるべき。語り部にも保全活動への参加を呼び掛けたり、参加機会を作って、保全に関心を持てるようにしてはどうか。
- 語り部の講座の中で、保全活動についての講習会を提案したい。午前中は座学で活動を紹介して、午後は峠で実際に活動して、保全活動を語り部に広く知ってもらう取組はどうか。実際に保全活動に参加する人が増えれば素晴らしいし、それができなくても、語り部で案内をする時に、保全活動の紹介につながるという。
- 語り部友の会の会報に、保全団体を紹介するコーナーを作って、会員に保全活動を知っていただくことから始めていきたい。
- これまで保全活動に寄付いただいた企業へのお礼の意味を込めて、20周年に向けて連携することで、保全団体のことを知っていただくような取組も行っていきたい。

### 【市町を越えた連携】

- これから進めていくうえで、市町と保全団体の代表者を明らかにして、組織図に落とし込んでいきたい。それが明確になれば、横とのつながりで連携しやすくなると思うがどうか。例えば、馬越峠は紀北町と尾鷲市の境であり、尾鷲市の保全団体とも連携できるように、世話人同士で話ができる体制を進めていきたい。
- 団体間で話し合う時の代表者は必要だと思うので、提案に賛成する。
- 組織図のような体制が必要という認識はあるが、何をやるのか、責任範囲はどうなるのか。たまに集まって情報交換するくらいであればいい。例えば、他の峠の管理にも責任が生じると、行動範囲が広がるのでできない。
- 責任を持って管理していくことは理想的だが、議論したいのは、地元の人たち

のボランティア活動を続けていくにはどうしたらいいか、ということ。統括組織については、企業からの支援を受け入れる窓口という目的で提案した。

**【まとめ】**

- 次回までに、組織形態図をより具体的にすること、統括組織はどこが担うのかという検討をお願いしたい。